



2020.11.29

ニリンソウ自生地保護 活動情報

akatsukanironso@gmail.com
発行：都立赤塚公園サービス
センター ボランティア係
03-3938-5715
編集責任：運営サポーター：
木村松夫 090-8646-9757



<12月、2021年1月の活動日程>

- ・12/13 手刈りの草刈り(大門地区観察台集合)
 - ・12/20 (12/13の雨天予備日)
 - ・2021/1/10 八丁目の林の手入れ
(赤塚城址ため池公園の梅林下集合)
 - ・2021/1/17 (1/10が作業終了しない場合の予備日)
- *いずれも日曜日、10:00、*雨天は中止です。
- ・1~2月には大門ニリンソウ自生地のヤエムグラの抜き取りを実施します



迫る冬...

手入れ作業は 順調に進行中

11月なのに12月半ばの気温に冷え込んだり、かと思うと9月の暖かさに戻ったり、激しい気候変動は依然として続いています。そんな時は身体で感じるよりは公園の落葉樹の葉の色づきと散り具合を見るほうが季節の変化を確実に読み取ることが出来るのかもしれない。



都立赤塚公園中央地区のイチョウ、先週まで黄色く色づいていた1本は11/29にはもう落葉して枝だけになっていました

林の中でも、2週間前にはきれいに咲いていたキチジョウソウがすでに花枯れ。3月の下旬にニリンソウが咲き終わった頃に開花するハナウドはもう葉を広げています。時の流れはここにもあり。



←11/15のキチ
ジョウソウ

↓11/29はもう花が枯れた状態



ハナウド→

越年草なので、この葉を刈り取ってしまうと、翌年春の開花が見られなくなり、子孫も残せなくなります。3月開花→



11/29 21名 過去最多参加かも？ 人の力は偉大ない！

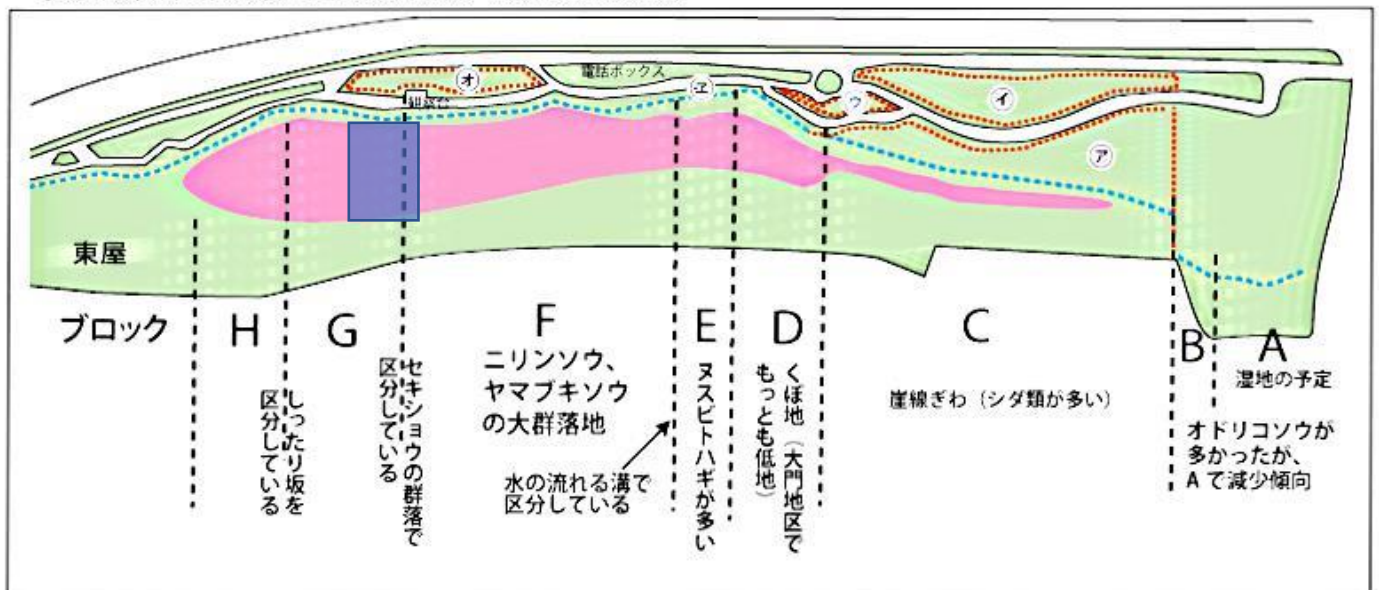
というわけで、「生物多様性保全」のシンボルであるニリンソウ自生地には「雑草」として扱われる植物はひとつもなく、草刈りも注意深く行います。11/29の作業はニリンソウの最大群落から外れたGブロック（下のマップの青い部分）で行いましたが、特にこ



には前ページのほかにセキショウやオオハナワラビなど、他の場所ではあまり見られない貴重な植物が群生しているので、それらを残しながらの草刈りでした。これは機械刈りでは出来ないこと。機械も必要ですが、基本は人間の知恵と力です。

都立赤塚公園大門地区手入れマップ 2020.11.24 改定

・2020.8 生物多様性保護エリアを含めてサービスセンターが引き直したマップに、2014年発行『残そう！崖線の自然』に記録されている手入れの際のブロック分けを当てはめたもの。榮志代氏による監修。



この日のピック マンリョウとナガバジャノヒゲの実



赤くてきれいな木の実を「万両→千両→百両→十両」と大きい順に並べて比較したりします。マンリョウ（万両）の実が左の上の写真。11/15 付け情報でも紹介したヤブコウジ（藪柑子=左下）は十両ということです。



この日はジャノヒゲよりもひと回り大型のナガバジャノヒゲ（右）の青い実もありました。

